

丹波高原につつまれ 人の交流・連携で築く ぬくもりと躍動のあるまち

広報 京丹波



KYOTAMBA TOWN



夏本番!

待ちに待ったプール開きに大はしゃぎ。夏にはやはり、子どもたちのあどけない笑顔がよく似合います。(写真は和知小学校)

[特集]

平成17年度まちの決算

CONTENTS

特集・平成17年度まちの決算	2~5
ホークスベリー市留学生在がホームステイ	6・7
シリーズ・地域自治のススメ②	8
暮らしのガイド・町税条例の一部が改正されました	9
フラッシュ TOWN NEWS 2006	10・11
まちの元気人⑥	12

旧二町で総額96億円

旧丹波町・旧瑞穂町・旧和知町の平成十七年度（四月一日～十月十日）の決算がまとまり、六月の議会定例会で承認されました。決算総額は、旧三町で総額九六億二、三五八万円（一万円未満四捨五入、以下同じ、財産区会計除く）。内訳は、一般会計が五七億七、二九九万円（旧丹波町三億五、七二〇万円、旧瑞穂町一八億七、三三三万円、旧和知町一五億四、二五七万円）、特別会計が三八億五、〇五九万円（旧丹波町一四億九、七二七万円、旧瑞穂町一三億三、二三六万円、旧和知町一〇億二、一〇六万円）となりました。

一般会計「歳出」

総務費

全般的な管理事務、企画、財政、財産管理などに要する経費です。合併準備経費や行政情報システムの保守管理、京都丹波高原ロードレース、五十周年記念事業（旧丹波町・旧和知町）などに支出しました。そのほかは「一般会計主な使いみち」のよみかた。

民生費

住民の福祉に関係する経費です。老人医療や障害者医療、母子・乳幼児医療の給付、高齢者の介護予防や障害者の自立支援、保育所の管理運営などに支出しました。

衛生費

住民が健康で、衛生的な生活環境を保つための経費です。南丹病院組合や船井郡衛生管理組合の負担金、各種健（検）診事業などに支出しました。

農林水産業費

農林水産業の振興に要する経費です。支出内容は、「一般会計主な使いみち」とおりです。

総合的な農林業振興、特産品振興、有害鳥獣駆除対策などに支出したほか、旧丹波町は丹波ふるさと振興公社の運営補助（二五五万円）、旧瑞穂町は水田農業構造改革対策助成事業（二二五万円）、旧和知町は、道の駅「和」わち山野草の森の

管理委託（一、六五〇万円）などに支出しました。

商工費

商工業や観光振興に関する経費です。旧丹波町は小規模事業者指導補助（三三〇万円）、旧瑞穂町は小規模事業経営支援（五〇〇万円）、質志鐘乳洞公園管理運営委託料（六〇八万円）、旧和知町は商工会育成事業補助（五五〇万円）を支出しました。

土木費

道路、橋りょう、河川、住宅などに要する経費です。道路改良工事に支出したほか、旧丹波町は都市公園整備にかかる

用地等購入、旧瑞穂町・旧和知町は町営住宅の建築などに支出しました。

教育費

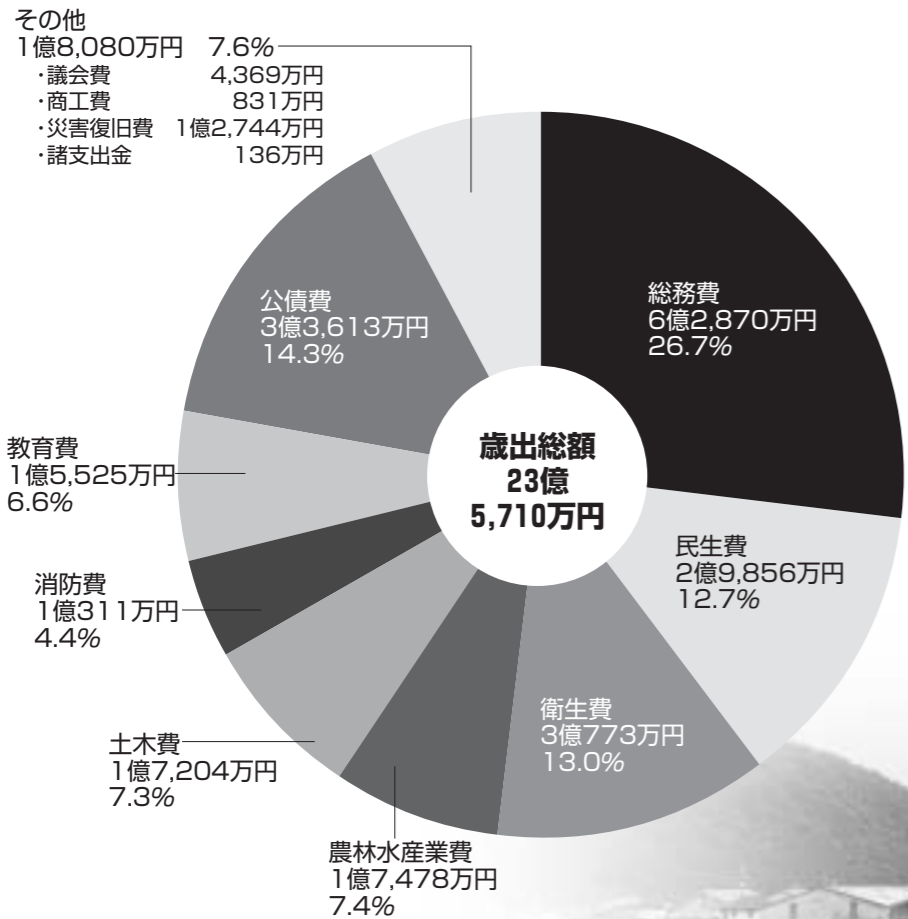
教育委員会、小中学校、社会教育など、教育に関する経費です。小中学校の管理運営、生涯学習・スポーツ推進などに支出しました。

その他

議会の運営（議会費）、災害で破壊・崩壊した農業用施設や農地、道路・河川の復旧（災害復旧費）、消防団の運営や消防施設の管理（消防費）などに支出しました。



一般会計歳出目的別内訳



一般会計主な使いみち（旧丹波町）

総務費	
○合併50周年記念事業	529万円
○合併推進費(庁舎改修)	793万円
民生費	
○施設入所給付費	2,339万円
○老人医療給付	680万円
○ホームヘルプサービス給付費	766万円
衛生費	
○検査検診委託料	1,977万円
○丹波町・瑞穂町水道事業 組合負担金	5,203万円
農林水産業費	
○家畜ふん尿処理施設整備	4,236万円
○丹波食彩の工房運営費	3,551万円
土木費	
○ダム関連対策事業負担金	3,050万円
○都市公園整備事業(須知・用地等購入費)	9,781万円
教育費	
○中学校通学バス補助金	218万円
○スクールバス運行委託料	375万円

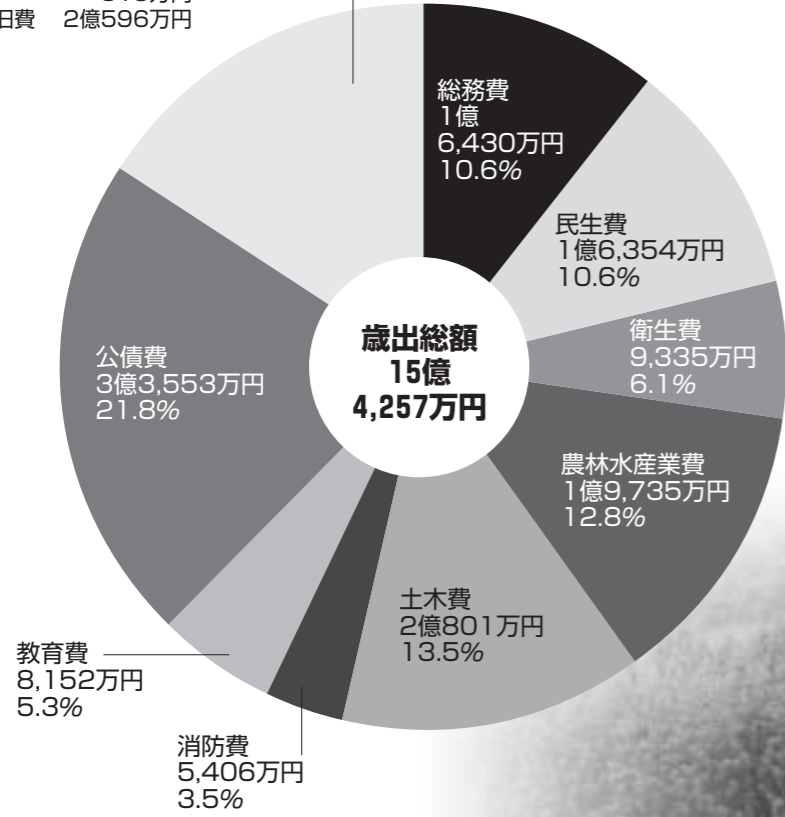
特別会計決算額

会 計	金額(千円)
国民健康保険事業	3億5,203万円
老人保健	4億 910万円
介護保険事業	2億4,938万円
下水道事業	1億7,196万円
土地取得	0円
育英資金給付事業	26万円
丹波町・瑞穂町水道事業組合会計	3億 714万円
丹波町・瑞穂町水道事業組合特別会計	730万円
合 計	14億9,717万円

都市公園建設用地(須知地内)

一般会計歳出目的別内訳

その他
2億4,491万円 15.8%
・議会費 2,980万円
・商工費 915万円
・災害復旧費 2億596万円



旧和知町

一般会計主な使いみち (旧和知町)

総務費	
○町制50周年記念事業	119万円
○合併推進費(合併準備経費)	418万円
○仏主水車小屋新築工事	471万円
民生費	
○施設訓練等支援費	1,450万円
○母子・乳幼児医療給付費	396万円
衛生費	
○健康診査事業	1,360万円
農林水産業費	
○農林業体験公園施設建築工事(大迫)	3,513万円
○フォレストコミュニティ 林道峰線開設工事(才原)	6,516万円
○道の駅・山野草の森 管理委託料	1,650万円
土木費	
○道路改良工事(大迫上乙見線ほか)	4,451万円
○特定公共賃貸住宅建設工事(木ノ上団地)	1億1,382万円
教育費	
○小学校特別教室改修工事	61万円
○要保護・準要保護就学援助費	69万円

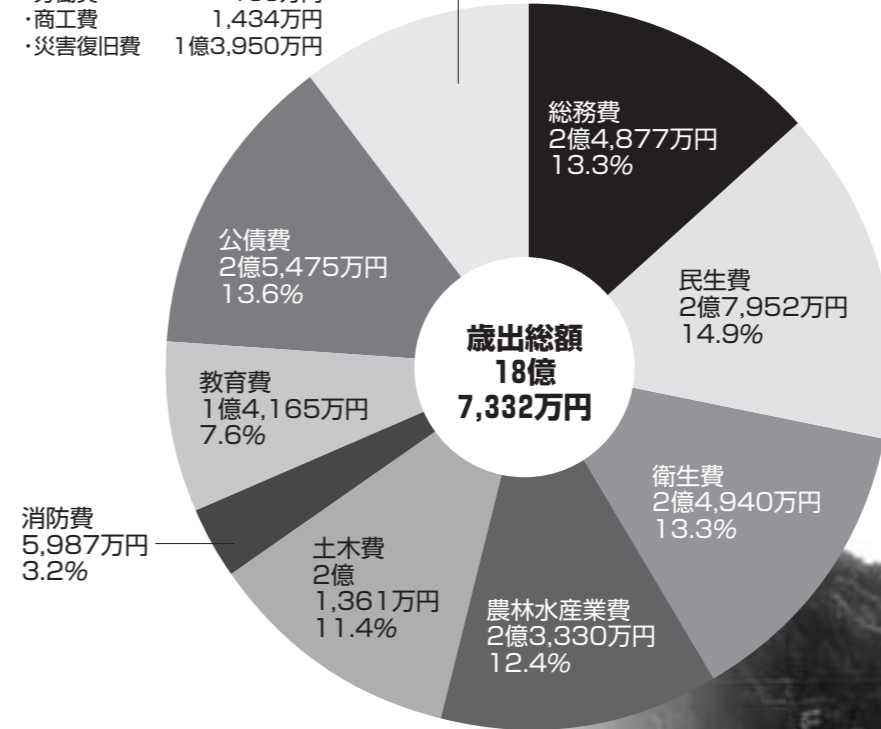
特別会計決算額

会 計	金額(千円)
国民健康保険事業	2億 3万円
和知診療所	1億7,850万円
和知歯科診療所	3,775万円
簡易水道維持管理	1億4,626万円
老人保健	2億3,119万円
介護保険	1億7,030万円
農業集落排水事業	3,741万円
町営バス運行事業	1,717万円
土地取得	141万円
宅地等開発事業	104万円
合 計	10億2,106万円

農林業体験公園施設(大迫地内)

一般会計歳出目的別内訳

その他
1億9,245万円 10.3%
・議会費 3,728万円
・労働費 133万円
・商工費 1,434万円
・災害復旧費 1億3,950万円



旧瑞穂町

一般会計主な使いみち (旧瑞穂町)

総務費	
○グリーンランドみずほ管理運営委託料	2,500万円
○合併推進費(合併準備経費)	425万円
○旧JA三ノ宮倉庫改修工事	137万円
民生費	
○障害者支援費	1,831万円
○すこやか子育て医療費給付金	512万円
衛生費	
○瑞穂病院事業会計運営補助金	1億1,528万円
○丹波町・瑞穂町水道事業組合負担金	3,767万円
農林水産業費	
○集落道改良工事(水原廻り町線)	2,953万円
○農村情報施設(CATV)管理費	1,648万円
土木費	
○町営住宅建築工事(三ノ宮団地)	6,957万円
教育費	
○小学校施設改修工事(松山小、三ノ宮小)	509万円

特別会計決算額

会 計	金額(千円)
国民健康保険(事業勘定)	2億1,270万円
国民健康保険(直営施設[質美診療所]勘定)	1,175万円
老人保健	3億1,020万円
町営バス運行事業	2,304万円
介護保険事業	1億5,892万円
農業集落排水事業	9,635円
特定環境保全公共下水道事業	1億2,692万円
瑞穂病院事業	3億9,248万円
合 計	13億3,236万円

町営住宅の建築(三ノ宮団地)



留学生とホストファミリーが、グラウンドゴルフでゆったりと楽しいひとときを過ごしました。(5月21日、グリーンランドみずほ)



新宮寺(豊田)で茶道を体験する留学生たち。慣れない正座に苦戦しながらも、お茶のたて方や飲み方など作法を学びました。(5月18日)



留学生/セーラ・ウィラードさん
和知中学校の皆さん、とてもやさしく、親切に接していただき感謝しています。越浦さん一家とお別れするのはとてもさびしいですが、またいつか来日できる日を楽しみにしています。

越浦勝司さんファミリー (市場)
旧和知町でニュージージーランドの留学生を受け入れたことがあり、今回でホストファミリーは二回目の経験でした。セーラはわたしたちと自然体で接してくれましたので、とくにあれこれ心配することもなく、わたしたちも普段どおり自然体で彼女と接することができました。セーラと共に家族一同ゆっくりと充実した時間を過ごすことができました。



留学生/ティモシー・クラークさん
滞在中、たくさんの友だちができました。問題があったとき、いつも助けてくれた細見ファミリー、最高の家庭でお世話になりました。

細見和浩さんファミリー (上大久保)
食事に関しては、やはり、文化の違いを感じ、コメ中心の日本食を理解してもらうのが大変でしたが、振り返ってみると、あつという間の一カ月間で、毎日が充実していたなあというのが今の気持ちです。家族一同、笑顔の絶えない毎日過ごせたこと、うれしく思っています。



留学生/エメラルド・トマスさん
お世話になった田中さんご一家には心から感謝しています。友だちもたくさんできました。この友情がいつまでも続いていくことを願っています。

田中三治さんファミリー (蒲生)
昨年、娘がホークスベリーに留学し、今回わたしが受け入れたエメラルドの家でホームステイさせてもらった関係で、ホストファミリーをさせていただきました。娘とエメラルドは年齢が近いこともあり、毎日が修学旅行気分だったのではないでしょうか。とてもにぎやかな毎日、楽しい時間でした。



6月8日、町中央公民館で行われた送別会。お世話になったホストファミリーに感謝を込めて、留学生から花束が手渡されました。

オーストラリア・ホークスベリー市 留学生5人がホームステイ 友情ときずなを 育んだ35日間

5月6日に来日し、京丹波町でホームステイをしていた姉妹都市オーストラリア・ホークスベリー市の留学生5人(男性3人、女性2人)が6月9日、35日間の留学生生活を終え、それぞれの思い出を胸にオーストラリアへ帰国しました。滞在中、日本文化や京丹波町の自然に触れ、学校生活では仲間との友情を育んだ留学生たち。ホストファミリーとのきずなも深まり、涙で言葉にならない別れでした。



留学生/サム・マレンさん
日本ですばらしい時間を過ごせたことに感謝しています。この経験を大切にしていきたいと思います。

保ヶ部英一さんファミリー (下大久保)
サムは、とても素直で、田植えを手伝ってくれたり、地区の運動会にいっしょに参加してくれたりして、家族の一員として過ごしてくれたことがうれしかったですね。今回、ホストファミリーをさせていただき、家族一同楽しい時間を過ごせたことに感謝しています。ありがとうございました。



留学生/ジョーダン・チャンさん
わたしを受け入れてくれた西山さんご一家に感謝の気持ちでいっぱいです。とてもたのしいご家族でした。また滞在中にお世話になったすべての方々へ感謝します。

西山和樹さんファミリー (水原)
ホストファミリーは初めての経験で、食事が一番心配でしたがジョーダンは何でも食べてくれたので助かりました。毎日、辞書を手にしながらの会話でしたが、お互いに分からない言葉を英和辞典などで教え合ったりする中で、ふれあいも徐々に深まっていきました。楽しく三十五日間過ごせたことに感謝しています。

ホストファミリー☆留学生インタビュー

町税条例の一部が改正されました

地方税法の一部が改正されたことに伴い、京丹波町税条例の一部が次のとおり改正されました。(今年度の住民税から適用しています。)



税務課窓口

暮らしのガイド

■個人住民税

次の人には、均等割および所得割がかかりません。

- 生活保護法の規定による生活扶助を受けている人
- 障害者・未成年者・寡婦・寡夫であって、前年中の合計所得金額が125万円以下の人

次の人には、均等割がかかりません。

- 控除対象配偶者または扶養親族がない人で、前年中の合計所得金額が28万円以下の人
- 控除対象配偶者または扶養親族がある人で、前年中の合計所得金額が次の算式で求めた額以下の人
⇒28万円×(本人+控除対象配偶者+扶養親族)
+16万8,000円

次の人には、所得割がかかりません。

- 控除対象配偶者または扶養親族がない人で、前年中の合計所得金額が35万円以下の人
- 控除対象配偶者または扶養親族がある人で、前年中の合計所得金額が次の算式で求めた額以下の人
⇒35万円×(本人+控除対象配偶者+扶養親族)+32万円

■既存住宅耐震改修に伴う固定資産税の軽減措置が創設されました

既存住宅で現行の耐震基準に適合した改修工事を行うと、改修後一定期間その住宅の固定資産税が2分の1に減額される制度が創設されました。要件は次のとおり。

- 昭和57年1月1日以前から存している住宅であること。
- 現行の耐震基準(昭和56年6月1日施行)に適合した改修工事であること。
- 改修工事費が1戸あたり30万円以上であること。

減額は、改修工事が完了した年の翌年分から実施されますが、工事完了時期に対応する減額です。

- 平成18年1月1日～平成21年12月31日までに改修した場合
⇒3年度分
- 平成22年1月1日～平成24年12月31日までに改修した場合
⇒2年度分
- 平成25年1月1日～平成27年12月31日までに改修した場合
⇒1年度分

※住宅1戸あたり120㎡相当分までが減額の対象になります。政令に基づく耐震基準を満たしている証明書の添付が必要です。(完了後3カ月以内の申告が必要)

問い合わせ先/税務課 電話82-3802

6月の町営バス利用者数

路線名	利用者数(人)		
	一般	生徒学生など	計
丹波和知線	747(+ 83)	4,030(+ 575)	4,777(+ 658)
丹波桧山線	73(+ 21)	2,598(+ 298)	2,671(+ 319)
高原下山線	226(+ 64)	3,126(+ 489)	3,352(+ 553)
竹野線	66(+ 16)	0(± 0)	66(+ 16)
小野鎌谷線	388(- 37)	1,050(+ 181)	1,438(+ 144)
猪鼻戸津川線	296(- 44)	775(+ 163)	1,071(+ 119)
質美線	722(- 62)	1,861(+ 297)	2,583(+ 235)
仏主線	457(+ 24)	812(+ 52)	1,269(+ 76)
長瀬線	528(+ 19)	776(+ 56)	1,304(+ 75)
才原大簾線	208(+ 62)	2,396(+ 156)	2,604(+ 218)
上乙見線	51(+ 12)	2,106(+ 186)	2,157(+ 198)
合 計	3,762(+158)	19,530(+2,453)	23,292(+2,611)

今月の町営バス利用者

このコーナーは、町営バスの利用実態を皆さんにご理解いただくため、毎月、1カ月間の路線ごとの町営バス利用状況をお知らせしています。

シリーズ 地域自治のススメ

第2回

協働のまちづくり

前回のシリーズでは、地方分権が進む中、全国各地で進められている「住民自治」によるまちづくりとはどういったもので、今、なぜ必要なのかについて考え、「住民自治」を推進するうえで、「住民参加」と「協働」が必要であると述べました。では、「住民と行政とが協働してまちづくりを行う」といふのはどういったことなのでしょう。

これまで「公共サービス」は行政が提供する領域と一般的に考えられてきましたし、人びとの生活が豊かになり、多様化・高度化する住民ニーズに対応するため、行政が行う公共サービスも充実してきました。

しかし、前回(六月十五日発行、広報京丹波第八号)でも述べたとおり、一定の経済成長を経て社会全体が成熟化し、一方で、少子・高齢化の進展などに伴い、地域課題が多様化・複雑化している現在において、厳しい財政状況に直面している今の多くの自治体が、これらの課題すべてに対応していくのは事実上不可能といわざるを得ない状況です。

こうしたことから近年、限られた財源の中で地域の実情や住民ニーズに合ったまちづくりを行うため、全国的にも相当数の自治体において、「協働のまちづくり」が進められています。

「協働」とは、住民と行政とが、協力してまちづくりを行うことを意味します。つまり、「公共」行政ではなく、「公共」の分野に

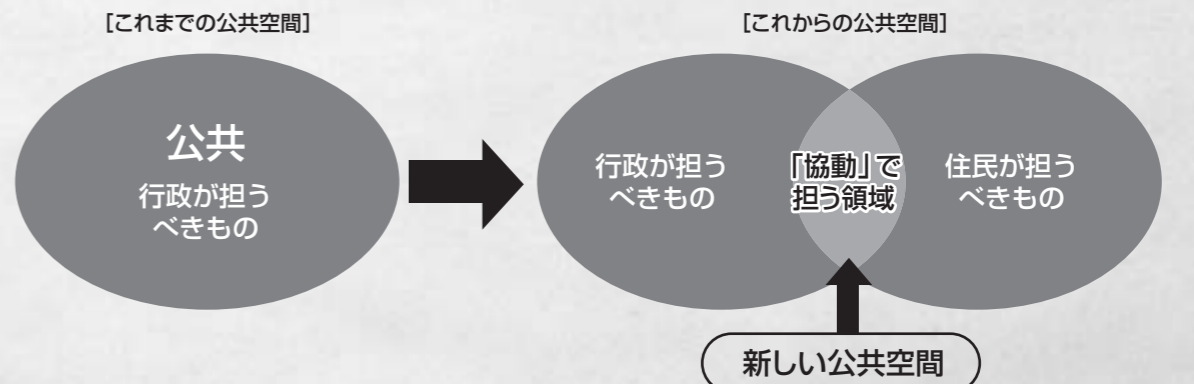
住民やNPO法人、ボランティアグループ、企業など地域を構成するさまざまな主体が関わり、共に力を合わせてまちづくりを行うことが「協働のまちづくり」なのです。

新しい公共空間

京丹波町内においても、すでに「協働の形」は存在しています。例えば、福祉の分野においては、NPO法人や各種ボランティアグループが積極的な活動を展開し、「公共」の分野を担っています。

そこには、福祉の向上という共通の課題に対して行政とNPOなどが互いにそれぞれの役割を分担し、協力して取り組んでいくという「新しい公共空間」が形成されています。

このように「協働の形」をさまざまな分野で実践し、「新しい公共空間」を創出していくことが「協働によるまちづくり」であり、このことが、住民と行政とが地域課題について共に考え、解決に向けて共に行動する「住民自治」にとって重要な要素であるといえます。



黒豆学校が開校

今年度の「黒豆学校」が六月十日、丹波食彩の工房（高岡）で開校し、町内をはじめ京都市や大阪市から家族連れなど約四十人が参加しました。

黒豆学校は、都市住民にこの地域の名産「丹波黒」の栽培や黒豆のみそ作りなどの体験をってもらうとともに、地元農家との交流や地域の活性化を図ることを目的に四年前から実施。今年度は二十八区画に申し込みがありました。

この日の午前中に同工房近くの若竹センター（高岡）で行った開校式では、地元農家で同事業の講師を務める山田元さんが、栽培法や良い黒豆を作るコツなどを説明。午後から参加者は、山田さんの指導のもと、実際に農場へ出て種まきを行いました。

参加者は、丹波黒大豆の在来品種「丹波黒」を基に品種改良された「新丹波黒」をひと粒ひと粒と丁寧に植え、すべて種え終わると、汗をぬぐいながら達成感のある笑顔を浮かべていました。今後、参加者は来年二月まで栽培、収穫、黒豆のみそ作りなどを体験する予定です。



種まきを行う参加者（丹波食彩の工房の前の農場。高岡市内）

更生保護女性会が発足

六月二十一日、町生涯学習センター（豊田）で「京丹波町更生保護女性会」の設立総会が行われ、会員ら約五十人が出席。会則をはじめ、更生保護事業に関する啓発活動や青少年の健全育成事業などを盛り込んだ今年度の事業計画、役員などが決まりました。（敬称略）

会長／坂本國子（豊田）
副会長／奥てるの（橋爪）
理事／船越幸子（口八田）
森下信枝（和田）
片山和子（出野）
竹野美都子（質美）
監事／和久田治野（須知）



あいさつをする坂本会長（町生涯学習センター）

ゲートボールで世代間交流広がる

町ゲートボール協会（前田実会長、八田）の会員が町内の小学生たちと交流する「ゲートボールを通じたふれあい事業」が六月十九日、下山小（由良賀代子校長、児童数八十一人）で行われ、高学年の児童三十九人がお年寄りとゲートボールを楽しみました。

この日の教室では、児童と同協会の会員が四つのコートに分かれてプレー。お年寄りたちは、子どもたちに競技のルールやボールの打ち方を指導し、子どもたちの打ったボールがゲートを通ると、いっしょに手をたたいて喜び合うなど交流を深めました。

この事業は旧丹波町ゲートボール協会が世代間交流などを目的に行っていたもので、合併後発足した同協会が引き継いで実施。六月九日の三ノ宮小での教室を皮切りに現在、各小学校を巡回中で、七月中には、町内の全小学校を回り終える予定。



ゲートボール協会の会員にコツを教わる児童たち（下山グラウンド）

総合型地域スポーツクラブソフトバレーボールで交流

瑞穂地区の四つの総合型地域スポーツクラブ（松山わいわいクラブ、梅田元気村、三ノ宮さんさんクラブ、質美かがやき）の連絡組織「瑞穂総合型地域スポーツクラブ推進連絡会」（瀬誠会長、質美）が六月一日、二日の二日間、第一回瑞穂地区ソフトバレーボール交流大会を開催。各スポーツクラブの会員ら十七チーム約百五十人が白熱した試合を展開するとともに、ソフトバレーボールを通じて交流を深めました。

この大会は、同会が総合型地域スポーツクラブの普及と会員拡充、各クラブ間の連携と会員相互の親睦交流などを目的に初めて開催。参加した各スポーツクラブの会員らは、日ごろの練習成果を発揮するとともに、声援や歓声が響く中、懸命にボールを追いかけて熱戦を繰り広げていました。



熱戦を繰り広げる会員たち（グリーンランドみずほ内B&G海洋センターアリーナ）

がんばれ操法選手

八月六日、府立丹波自然運動公園で行われる「第十九回京都府消防操法大会」（京都府・財団法人京都府消防協会主催）に向け、丹波・瑞穂・和知の各支団の出場選手たちが、熱のこもった訓練に励んでいます。皆さんのご声援をお願いします。



訓練に取り組む和知支団の出場選手（下栗野グラウンド）

出場選手は次の方々です。（敬称略）

■丹波支団（小型ポンプの部）
指揮者／一瀬進一郎（蒲生野）
一番員／岩崎祐樹（蒲生野）
二番員／樹山哲也（上野）
三番員／山西義幸（上野）

■瑞穂支団（小型ポンプの部）
指揮者／細川智則（鎌谷下）
一番員／山田友裕（東文）
二番員／山田喜彦（東文）
三番員／大野勉（東文）

■和知支団（小型ポンプの部）
指揮者／出野文隆（大倉）
一番員／山下貴典（篠原）
二番員／田畑昭彦（市場）
三番員／井爪啓之（西河内）

稲作の省力化へ直播栽培を実験

京丹波町農業技術者会の瑞穂地域部会が五月二十二日、田んぼに直接、種もみをまく「直播」による栽培実験を瑞穂地区井尻地内のほ場で実施。府や農協、町などの関係者十人が見守る中、作業に取り組みました。

直播栽培は、酸素供給剤でコーティングされた特殊な種もみを、農機を使って田んぼに深さ一センチほど打ち込むもので、苗を植えるよりも労力がからず、育苗のコストも削減できるため、農地の荒廃防止の観点からも京都府が推奨。口丹波でも導入が進んでいます。

同技術者会では今後、秋に収量などのデータを分析し、直播栽培の導入や普及を検討していきます。



直播作業を見守る関係者（井尻地内）

質志鐘乳洞公園協力会が府観光連盟から表彰

地元区民らでつくる質志鐘乳洞公園協力会（高岸重由会長、質志）がこのほど、京都府観光連盟の観光関連事業功労者表彰を受賞。平成五年八月の開園以来、京都府指定天然記念物である鐘乳洞の自然造形保存や園内の美化・環境整備に会員が一致団結して努め、町内外の観光客に愛される施設運営を進めてきた功績が認められている。

高岸重由会長は「歴代会長をはじめ会員みんなが協力の受賞を励みに、今後多くのお客様から愛される観光地づくりに努めていきたい」と話していました。



表彰状を手にする高岸会長（質志鐘乳洞公園）

知事表彰 おめでと〜んばいります

奥井勝さん（鎌合奥）と田中まさ子さん（戸津川）がこのほど、府内の戦傷病者、戦没者遺族、旧軍人等援護などの援護関係団体表彰において知事表彰を受賞。永年にわたり京都府軍恩連盟の役員として活動した功績が認められての表彰です。おめでと〜んばいります。



奥井勝さん

田中まさ子さん

黒豆学校を通じて 京丹波のすばらしさ伝えたい

黒豆学校・講師 やま だ はじめ 山田 元さん(69歳) 高岡



「オーナーの皆さんの喜ぶ顔が何よりも励みになります」と話すのは、「黒豆学校」の講師・山田元さんだ。

「黒豆学校」は、都市住民と地元農家との交流や地域の活性化を図るとともに、地域産農作物の二次製品加工などを行う「丹波食彩の工房」への集客などを目的に、旧丹波町で四年前に始まった。(十ページに関連記事)

今年度の黒豆学校には、町内をはじめ京都市、大阪市などから二十八の家族が入校。約七割が二回目、三回目の参加というリピーターだ。参加者たちは区分けされたほ場のオーナーとして、秋の収穫まで、間引きや土寄せ、

除草、害虫駆除などの農作業に取り組み、収穫後は、獲れた黒大豆を使ったみそ作りや豆腐作りなどを体験していく。

山田さんのこれまでの人生はまさに農業一筋。黒大豆栽培歴も十八年の経験を持つ。こうして豊かな経験と食彩の工房近くに、ほ場があることなどがきっかけとなり、昨年度から黒豆学校の講師を務めている。

「町内には黒豆作りの名人がたくさんいらっしゃる中、わたしが栽培指導をするのは、大それたことですが」と謙虚に話す山田さん。「参加者の皆さんが良い黒豆を栽培できるようにお手伝いするのがわたしの役目。自分の力で丹精込めて育てた作物を食するようになりたい、農業のすばらしさを肌で感じてもらいたいですね」と穏やかな表情で話してくれた。地元の人や黒豆学校の参加者からは「ガンさん」の愛称で親しまれている山田さんの親切で、ていねいな指導ぶりは参加者にも大人気だ。

「京丹波町は黒豆の名産地。とにかくオーナーの皆さんに、存分に黒豆作りを楽しんでいただき、リピーターの輪を広げ、都会に住む人たちに『黒豆のまち・京丹波町』を発信していきたいですね」と山田さん。「黒豆学校を通じて、まちの活性化のお役に立てれば」と、順調に育っているオーナーたちの苗に、あたたかいまなざしを向けながら話を締めくくった。

編集後記

約一カ月間にわたり、サッカーワールドカップドイツ大会が開かれ、盛り上がりを見せた。日本代表は残念ながら予選リーグで敗れてしまったが、世界の一流選手のプレーに、毎晩寝不足になった人も多かったのではないだろうか。▼近ごろ、昆虫や鳥など生物に興味があるわが娘。休日には、そんな娘を連れて田んぼで、おたまじゃくしをとったり、夜にはホテルを見に出かけたりすることが多くなった。「オタマジャクシは、いつカエルになるの?」と娘に聞かれ、家ではちょっとした理科の学習会が開かれている。ホテルの光に喜ぶ娘を見ながら、一歩外に出るだけで色んな生物を目にすることのできるわが町の自然環境のすばらしさを感じている今日のごろだ。

(Y)

わたしたちの町

人口 17,745(-13)
男 8,432(-14)
女 9,313(+ 1)
世帯数 6,510(+ 3)
7月1日現在/()は前月比